



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

3



Photo by H.Wakita(c)



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

6人がレコードを更新する激しい予選で 伊藤真一がポールポジション獲得!! 3連勝へ向けて好発進

今シーズン、関東で初めての全日本が開催される。ここまで、全クラス開催の第1戦MINE、第2戦はフォーミュラニッポンと併催の2&4でJSBだけの開催で、このクラスだけが3戦目となる。ここまで2戦、元GPライダーで全日本チャンピオンの伊藤真一(ホンダドリームRT)が、圧倒的な強さでレースを支配していた。昨シーズンから数えると5連勝を達成している。昨年のチャンピオン、井筒仁康が引退し、一昨年のチャンピオン、北川圭一が世界耐久選手権出場のために全日本から離れたこともあって、38歳のベテラン、伊藤の独壇場となるという見方もされている。伊藤はブリヂストンの契約でMotoGPのテストライダーを務めているが、今年はドゥカティのデスモセディチを担当している。ブリヂストンはグランプリのスケジュールよりも先行して、グランプリが開催されるサーキットでテストを行なっている。また国内では、全日本はホンダドリームRTから出場しているが、鈴鹿8耐に限っては今年もF.C.C. TSRか

ら出場することが決まっている。さらに、4輪レースにもたびたび出場するなど、サーキットからサーキットへと大忙しの日々を過ごしている。今回も、ヨーロッパから帰国し、時差ボケが治らないままの参戦となった。

その伊藤が、ここ筑波でも勢いよく、予選1回目から56秒666のコースレコードをたたき出す。この二人を押さえたのは辻村猛(F.C.C. TSR)だった。最後の最後に56秒661というタイムをたたき出してトップに躍り出た。辻村と伊藤は、8耐ではチームメイトだが、全日本ではライバルだ。続く予選B組では、山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)が開始早々にA組2位の伊藤と同タイム、56秒666をマークした。山口も事前から好調で、得意の筑波サーキットでは、何とか伊藤に一矢報いたいとねらっている。山口に続き渡辺篤(ヨシムラスズキジョモスリックソン)もコースレコードを更新した。気象状況、路面状況など、タイムを縮めるには絶好のコンディションなのだ。

午後の予選2回目、A組では、予選スタート直後に、午前には辻村がマークしたタイムを中富伸一(YSP&PRESTOレーシング)がクリアした。タイムは56秒463。20分の短い予選時間が過ぎていく中、最後の5分に、まず辻村が56秒331を出しトップに躍り出る。しかしその直後、伊藤は狙いすましたかのように56秒289という驚異的なタイムを出して、クラストップに立った。これを見た辻村、中富がともにタイムアタックを再開したが及ばなかった。予選B組では、柳川明(Team Green)が56秒639で山口、渡辺を抜きクラストップに立ったが、伊藤、辻村、中富にはかなわなかった。

結局6人がコースレコードタイムをマークする激しい予選となった。「56秒台中盤での走行が可能」と、伊藤が一人余裕を感じさせているが、明日の決勝では、そう簡単に伊藤が逃げることはできないだろう。

[青木 淳]



楽しみ方いろいろ。 MFJ SUPERBIKEの情報満載



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

GAORA(CS放送)で全戦放映!!
地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!
ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。
詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!

コースレコードラッシュ! 辻村が一番時計!!



公式予選はコースレコードラッシュとなったST600クラス。今回も60台がエントリー。グリッドが36台だけに、約半数が予選落ちとなってしまうぼ市販車状態(ストック)で争われるST600クラスは、予選～決勝を通じてタイヤ使用本数に厳しい制限があるため、予選1回目のタイムでほとんどグリッドが決まる。

金曜日の走行では辻村猛が59秒348でトップタイムをマークするものの、コースレコードを破るものは現れなかったが、予選となると

話は違う。まずA組では手島雄介が58秒台に突入。58秒925をマークして組トップにつける。B組では、ゼッケン1をつける辻村が手島を上回る58秒871をたたき出し、さらにコースレコードを更新した。

「去年のバイクと比べると、まだ足回りがしっかりきていない。もう一息なんですけどね。今年は手島が加入して、600のテストをしてきているので、今回の予選結果につながっている」と辻村は今年、両クラスで好調な理由を語った。

沼田憲保、安田毅史も58秒台をマークし、フロントロウを確保。MINEでトップ争いに加わりながら転倒してしまった奥野正雄が5番手。予選1回目にMCコーナーで転倒した大崎誠之は、予選2回目にタイムアップし、6番手につけた。以下、鶴田竜二、生形秀之と続きセカンドロウに並ぶ。

浜口俊之は予選1回目にトラブルが出てしまい16番手、酒井大作は17番手と苦戦しているが、実力のあるライダーだけに、追い上げのレースを見せてくれるかもしれない。トップ争いは59秒台中盤から後半で、どれだけ走れるかが勝利を引き寄せるポイントとなるはず。最後に残るライダーは果たして?

[佐藤 寿宏]

写真(上):辻村猛 (下):沼田憲保

青山周平、独走優勝なるか!? 横江、徳留、高橋江が阻止できるか??



冷たい雨のサバイバルレースとなった開幕戦。青山周平との一騎打ちを制した高橋江紀が劇的なデビューウインを飾った。ここでルーキーに敗れる屈辱を味わった青山は、今回の筑波には勝つことはもちろん、コースレコードの更新も実現しようとしていた。その意気込み通り予選1回目から57秒台をマーク。予選2回目でも、単独でタイムアタックし、57秒468をたたき出した。中野真矢の持つコースレコードには惜しくも届かなかったが、堂々の

ポールポジション。

「マシンがいいから、これぐらいのタイムが出てあたりまえです。グランプリだったら3列目のレベルだと思うし、常に上を見て走っていききたい。まだセッティングを詰める部分が残っているし、さらによくして決勝では一度でもいいから56秒台に入れたい」とすでにライバルは自分自身と言う感じた。

2番手につけたのは横江竜司。開幕戦も周平に対抗する最右翼と見られていたが、トップを独走しながら転倒。タイトルを獲得するためにも今回は周平に勝つことはもちろん、勝って、できるだけポイント差を詰めておきたいものだ。

3番手にはバーニングブラッドRTの高橋巧がつけ、初めてフロントロウ。4番手に徳留真紀が続き、前回のウィナー高橋江は5番手と、2列目からスタートする。「テストもできているので、だいぶ250に慣れてきました。スタートに集中して青山さんについていきたいです」と高橋江。ベテランの及川誠人、RC甲子園の佐藤裕児、MINEで初めて表彰台に上がった秋谷守と続き、ここまでがセカンドロウ。

決勝は周平が逃げ、横江、高橋江らが、どこまでついていけるかがカギとなる。周平の独走なるか!? それを阻止できるライダーは??

[佐藤 寿宏]

写真(上):青山周平 (下):高橋巧

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。
[佐藤 寿宏] 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年はMotoGPにも参戦(※ライダー)。
[川岸 健二] ロードレース専門誌『サイクルサウンドス編集部』に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

筑波育ちの世界チャンピオン経験者、 坂田和人がレコードタイムで予選を制す!!



開幕戦はディフェンディングチャンピオンの仲城英幸が、ヤマハ勢のエース、井手敏男を一騎打ちの末、下す形で制し、今シーズンも顔なじみのベテラン勢が主役となることは間違いない。しかし、ここ筑波ラウンドでは少し事情が違ふ。というのも、今年も1994、98年の世界GP、125ccチャンピオン、坂田和人がスポット参戦してきたからだ。筑波育ちの坂田は、昨年の全日本筑波ラウンドGP125に参戦して、ノーマル車ながら他車の転倒に巻き込まれるま

でトップ争いを繰り広げた。

その坂田は金曜日の練習走行から唯一の59秒台となるトップタイムをマークして、未だその実力が一線級にあることを証明した。そのため土曜の予選では、坂田が走り出すと背後には10台ものマシンが付け、早くも厳しいマークにさらされる。しかし坂田は巧みにライバルのマークを外すと、59秒697のコースレコードをマークしてポールポジションを獲得した。金土を通して59秒台に入れてきたのは、坂田ただ一人だ。「久しぶりのレースだし、決勝は苦しくなる」と語る坂田だが、金曜からの流れを見る限り、坂田が決勝の主導権を握るのは確実だ。

予選2番手は、得意の筑波で初優勝を狙う小室旭だ。小室は筑波で全日本初表彰台に立ち、昨年も筑波では菊池、坂田とともにトップを争っている。出走わずか2台となってしまったヤマハ勢を背負う井手が3番手につけ、ベテラン山本武宏までがフロントローを確保した。

筑波はコースレイアウト上、独走するのが難しいサーキットだが、それ故に決勝では、やはりGP時代から巧みなレース戦略を身上とする坂田が優位に立つだろう。しかしスポット参戦の坂田に易々と勝ち星を奪われまいと、フル参戦組も全力を尽くしてくるはず。また、このレースで全日本にデビューする13歳の中上貴晶、15歳の渡辺一馬の若手コンビにも注目だ。

[川岸 健二]

写真(上):坂田和人 (下):小室旭

5/15(日)決勝日イベント情報

※詳細はイベント広場(メインスタンド裏)にてお確かめください。
※イベントは変更または中止されることがあります。



キャンギャルオンステージ

●時間: 9:00~9:45・12:05~12:40

恒例となったキャンギャルオンステージとライダートークライブをメインスタンド裏特設ステージで開催。

ライダートーク

●時間: 1回目/11:00~11:30

(1回目: JSB1000・GP250のライダー)

2回目/16:00~16:30

(2回目: 各クラス優勝ライダー)

サーキットクルージング(体験走行)

レース終了直後の筑波サーキットレーシングコースをご自分のオートバイで体験走行できる!

●受付場所: 第1コーナー手前左側・テント

●参加料: 保険料として¥1,000-

●受付時間: 9:00~14:00(定員になり次第終了)

●時間: 第1/16:30~・第2/16:45~

※受付後に、車両の移動をしていただきます。

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンDEMツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT

毎月24日発売

2005年7月号<No.270>は5/24発売!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS EXCITING
ROADSPORTS
MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、
今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オフィシャルファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERS
として新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたパスを販売しています



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL: 0285-45-8465(AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

GP125 Class Starting Grid

●予選日天候/曇 ●コース/ドライ ●コースイン/10:05 ●決勝スタート/10:20(30周)

GP125 Class Starting Grid table with 36 numbered positions, rider names, and times.

※Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは0'59.759

ST600 Class Starting Grid

●予選日天候/晴 ●コース/ドライ ●コースイン/11:15 ●決勝スタート/11:30(30周)

ST600 Class Starting Grid table with 36 numbered positions, rider names, and times.

※Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは0'59.222

JSB1000 Class Starting Grid

●予選日天候/曇り ●コース/ドライ ●コースイン/13:45 ●決勝スタート/14:00(30周)

JSB1000 Class Starting Grid table with 35 numbered positions, rider names, and times.

※Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは0'56.829

GP250 Class Starting Grid

●予選日天候/曇り ●コース/ドライ ●コースイン/14:55 ●決勝スタート/15:10(30周)

GP250 Class Starting Grid table with 20 numbered positions, rider names, and times.